

帯電防止・超親水コート 塗布施工マニュアル

- スーパーガラスバリア : 外壁用
- クリーンセルフコートMC-T : 外窓ガラス用
- ソーラーセルフメンテコート : ソーラーパネル用



Sketch

基材別一覽

基材	素地調整	液剤	塗布量	施工方法	口径
外壁	高圧洗浄で清掃	スーパーグラスバリア	10cc/m ² ~	スプレー/ローラー	0.8~1.4
コンクリート	高圧洗浄で清掃後、シーラーを塗布	スーパーグラスバリア	20cc/m ² ~	スプレー/ローラー	0.8~1.4
アルミパネル	脱脂剤(洗浄剤)で清掃・拭き取り	スーパーグラスバリア	10cc/m ² ~	スプレー/スクイジー	0.8~1.4
ソーラーパネル	ガラス用油膜取りで清掃・拭き取り	ソーラーセルフメンテコート	10cc/m ² ~	スクイジー	-
外窓	水洗いのみ(油膜が強い場合は除去)	クリーンセルフコートMC-T	10cc/m ² ~	スクイジー	-

■外壁・遮熱塗料

- ・高圧洗浄で清掃し、乾燥後にスーパーグラスバリアを10cc/m²~塗布。
 - ・遮熱塗料塗布後は、最低6~7時間の間隔を空けてスーパーグラスバリアを塗布。
- ※遮熱塗料の揮発中にコートすると、塗膜面が突き破られ、性能が出ない為

■コンクリート

- ・高圧洗浄で清掃し、防水材を塗布し、最後にスーパーグラスバリアを20cc/m²~塗布。
- ※表面に凹凸がある為、フラットな基材の2倍以上の液剤が必要
また、防水材を塗布しないと吸収し続ける為、必ずシーラーを塗布する必要がある。
(シーラーの中にはスーパーグラスバリアと相性の悪いものがあるので注意)

■アルミパネル

- ・脱脂剤で清掃・拭き取り後、スーパーグラスバリアを塗布。

■ソーラーパネル

- ・専用のガラス油膜取りで清掃・拭き取り後、ソーラーセルフメンテコートを塗布。

■ガラス

- ・水洗で清掃・拭き取り後、クリーンセルフコートMC-Tを塗布。但し、油膜が強い場合は、専用のガラス油膜取りで清掃・拭き取り。

施工道具

セット内容



- ガラス油膜取り
- パッド
- バフ



- コーティング主剤
スーパーガラスバリア
ソーラーセルフメンテコート
クリーンセルフコートMC-T



- マイクロセーム

用意するもの



- スプレーボトル



- キッチンペーパー
- 液受け



- ビニールマスキング



- スクイジー

スプレー施工に必要なもの



- スプレーガン(重力式)
ノズル口径: 0.8~1.4mm



- レギュレータ



- コンプレッサー

事前準備・液剤調合

ソーラーセルフメンテコートについては、2液タイプとなります。
事前に液剤調合して施工に備えて下さい。

【調合方法について】

- A液とB液の配合比率は1：1となります。
- A液に対して、B液を少量ずつ添加し攪拌（かくはん）してください。

例) 完成品300g必要な場合

A液150gに対し、B液150gを添加
g(グラム)で計算する為、比重により
完成品は300ml以上になります。



【取り扱い上の注意点】

- 液剤はA液とB液で比重が違う為、大きさの違う容器になっていますが、同じ重さです。
- 配合直後の液剤は僅かながら熱を持ちますが、30分程で落ち着きます。
- 配合後は、1週間以内に使用するようにして下さい。
冷暗所にて保管して下さい。
- 液剤保証は出荷後1年間のメーカー保証となりますが、
調合後は保証対象外となりますのでご注意下さい。

油膜取り

◆油膜取り

①水をガラス全面に吹き付ける。

②水を吹き付けながら油膜取りをガラス全面に塗り伸ばす。

※ハジキがある箇所はさらに強く擦る



油膜取りのコツ

パットでこすったときに写真のように浮いてくるのが油膜です。

浮いてきた部分を擦って、はじきの箇所をなくするのが油膜取りの作業です。

油膜を取り残すと、コーティングをした時に、その部分がはじいて浮いてきますので、確実に油膜を除去して下さい。

③油膜取りが終わったら、スクイージーでおとす。



ポイント

手早く油膜取りの作業を行わないと、油膜液が固まって、スクイージーで落としにくくなります。

その場合は、水をかけて、油膜取りが液状になってきたところで手早くスクイージーで水切りしながら、油膜の液を除去していきます。

④ガラス全面に残っている油膜取り剤をキッチンペーパーで拭き取る。

塗布準備

◆スクイジーのセット

- ①幅35cm程のスクイジーを用意する。
※セット内のマイクロセームは36cm×23cm
- ②四つにたたみ、その上にスクイジーを置く。
※マイクロセームには裏表があり、
毛羽立った方が外側(塗布側)になるようにたたむ



◆液受けと保水

- ①液受けの上にビニールマスカーを敷き、コート剤を入れる。
- ②保水分10グラム、塗布量は**1㎡あたり10グラム程度**。
マイクロセームに万遍なく馴染ませる。

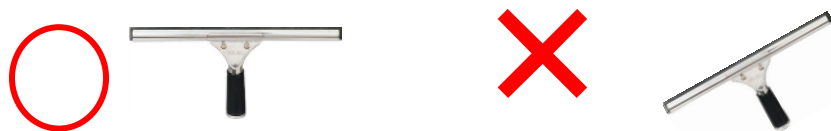
※保水量に斑があるとカスレの原因になる為、スクイジーを強く押し込み均一にするように

塗布作業

スクイジー

◆スクイジーでの塗布方法

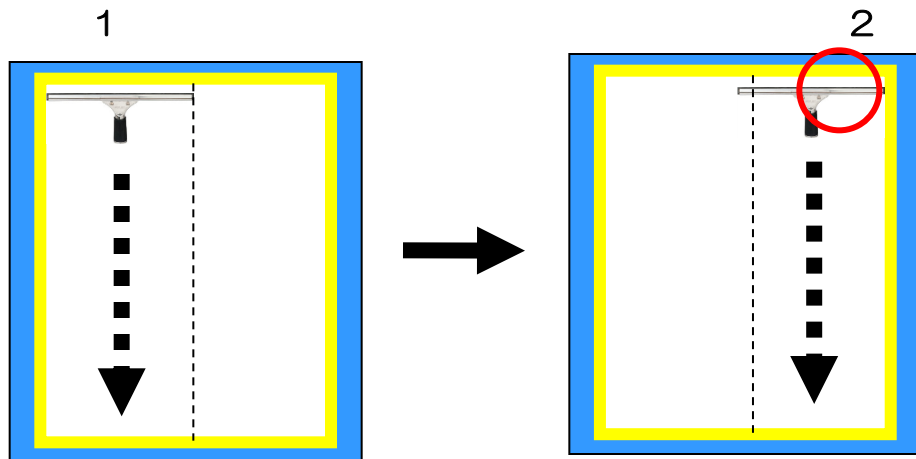
①スクイジーの当て方は平行に



②まっすぐ一番下までゆっくり塗り下ろす。

※スクイジーを早く動かしすぎると斑の原因となります。

③重ね目はできるだけ少なくなるように塗る



施工後について

帯電防止防汚コートは常温速乾タイプですので、塗布直後には表面乾燥しますが、完全硬化・塗膜が緻密化するまで24時間を要します。

施工前の準備

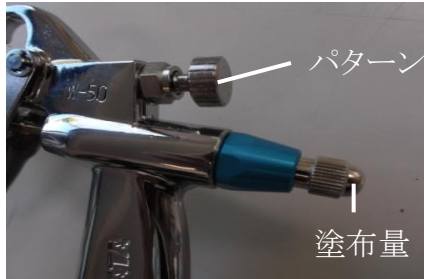
◆スプレーガンの調整

①パターン



②コンプレッサー内にオイルや不純物が混ざっている場合はフィルターを装着。

③手元圧力:
0.2~0.3Mpa



◆塗布量のチェック及び塗布練習

①カップに水を入れ、ガラス等に吹き付け塗布量をチェック。



注意点:

塗布した時に水滴が目に見えるレベルは吹きすぎです。(液垂れした場合ムラになる)
右写真のように細かい粒子で少し曇って見えるのが理想。
逆に塗布量が少なすぎると、塗膜を形成できず、性能が出ないので注意してください。

塗布前の準備

スプレー

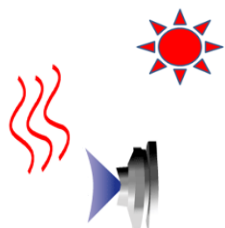
②基材との距離の目安は15～20cmくらい

※距離によって、①の塗布量も変わってきます。

注意点:

気温や風、基材の温度によって距離の微調整が必要になります。距離が遠すぎると基材に届く前に溶媒であるメタノールや水が揮発してしまい、粉状のものが基材に乗るだけで性能が出ません。

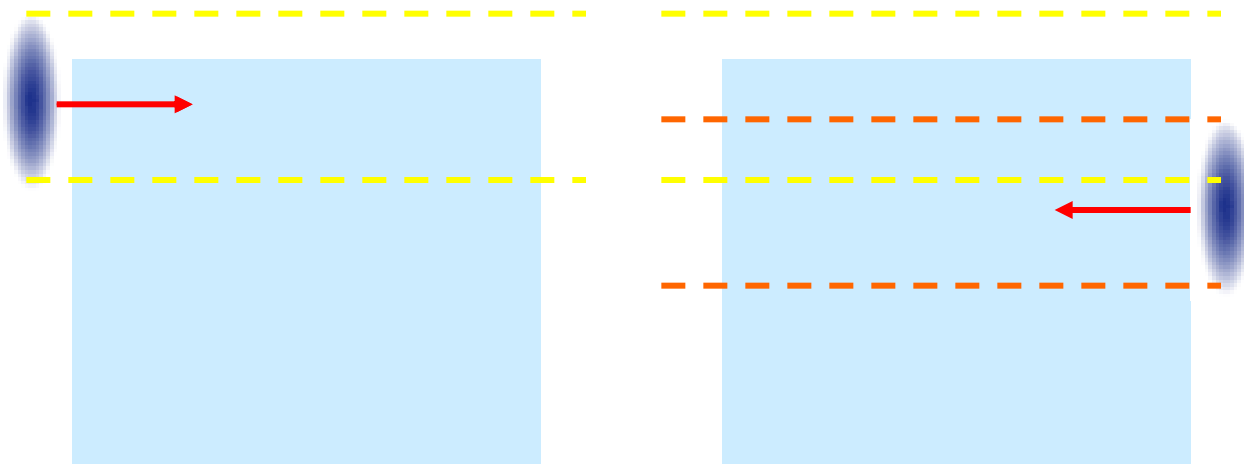
S
u
b



◆スプレー塗布手順

楕円パターンを中心部の塗布量が一番多い為、少し重ねながら、平行に塗布していきます。

※塗布スピードは、空気圧、塗布量、距離によって異なりますので、調整が必要です。



剥離方法

①下地処理と同様にコーティング膜に水をかけ、油膜取りで擦ると剥がれる。

※確認の為、油膜取り作業を二度行ってください。

②拭き取りをして再度塗布する。

◆コーティング密着の確認方法

液剤は透明タイプな為、しっかり密着しているかを以下の方法で確認します。

表面抵抗値計を使用し、塗布後1分以上経過した後、帯電防止機能が基準値を満たしているかチェック。

注)塗布直後や湿度が高い時は、空気中の水分の影響で数値が基準値よりも1~2乗良くなることもありますので、時間を空けてチェックして下さい。

※基材の温度が高すぎる場合表面抵抗計の数値が正しく表記ません。

例:塗布前 表面抵抗値10の11乗~12乗 Ω

塗布後 表面抵抗値10の8乗~10乗 Ω

※湿度が高い場合、本来の数値より1~2乗 Ω 良くなる場合があります。



塗布前



塗布後

注意点

◆注意点

施工環境に最適な基材温度は30度以下です。

- 気温やガラスの温度が高い時は、塗布量を少し増やしてください。
- 基材に水をかけて冷やしたり、液剤自体を外側から氷などで冷やすとより仕上がりが良くなります。
- 液剤は涼しい所で保管してください。

※冷蔵庫での保管も可能、クーラーボックス等に入れて持ち運ぶと良い。

目的: 基材や液剤を冷やし、揮発を遅らせ、コーティング膜の緻密化を促進させる。

◆施工環境の注意点

• 直射日光下の場合、非常に揮発が早いので直射日光が当たらないように日射を遮るほうが仕上がり、性能ともに良くなります。

• 直射日光下でなくても、風が一番揮発を促進させる為、風防が必要なケースも考えられます。

※気温・基材の温度・風の問題は全て、コート剤が揮発する速度に影響する為、仕上がりが悪くなる(ムラがでる)場合があります。

理由: 基材の温度が高いと、コート剤の溶媒(メタノール・水)が急激に揮発して、塗膜面に空洞ができ、その結果光が乱反射して塗膜が白く見える

★上記の理由から、特に夏の暑い時、強風時は施工を避けて下さい。